

平成30年2月24日 東京ホームタウン大学
分科会5 「世代や多様性を越えた交流のかたち」

社会福祉法人大田区社会福祉協議会

**六郷助けあい
プラットフォーム**



【テーマ】

— **子どもに関する活動課題を共有する場** —



大田社協の地域連携係について

- この4月より、新設した係です。
- 多様化した地域の福祉課題を解決していくために、次のような機能づくりを進めております。

地域課題の
整理・分析

企画立案

事業運営の支援

さまざまな団体が
出会う場づくり

+

足りない資源・
人材等の発掘

ボランティア・区民活動センター
と連携して

地域の福祉課題
の解決へ



事業開始のきっかけと課題



六郷という地域では、高齢者がいきいきと自分らしく地域で暮らし続けることができるよう、地域の高齢者が自分のできること・得意なことを活かして、地域に貢献できるような人材バンクのしくみがあります。

しかし、せっかくやる気やスキルがある方がいても、そうした方々の活躍できる場とうまく地域の課題が結びついていませんでした。

一方で、大田区では、平成29年3月に「おおた 子どもの生活応援プラン（子どもの貧困に関する計画）」が策定され、区独自の調査によって算定された「生活困難層」は21%（5人に1人）でした。

こうした中、六郷では子どもの課題に関心の高い自治会・町会の方や社会福祉法人が、子どものために何かできないかと社協に相談がありました。

そこで、六郷の地域をモデルに、**ニーズ（需要/子どもの貧困）**と**リソース（人材・資源/人材バンク）**がうまく結びつくように、まずは地域の**プラットフォーム化**ができないかと考えました。



六郷助け合いプラットフォームの立ち上げ

<<場のテーマ>>

それぞれの活動で抱える

「六郷の子どもの課題を共有する場」

~~組織化すること~~

~~答えを出すこと~~

東京ホームタウン
プロジェクト
地域コーディネーターカ
強化プログラム
伴奏支援に応募！

主目的にしない



まずは

対話



相互理解が大事





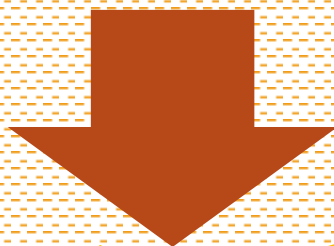
プラットフォーム化に向けて

子どもを取り巻く状況

よく話題になる子どもの課題

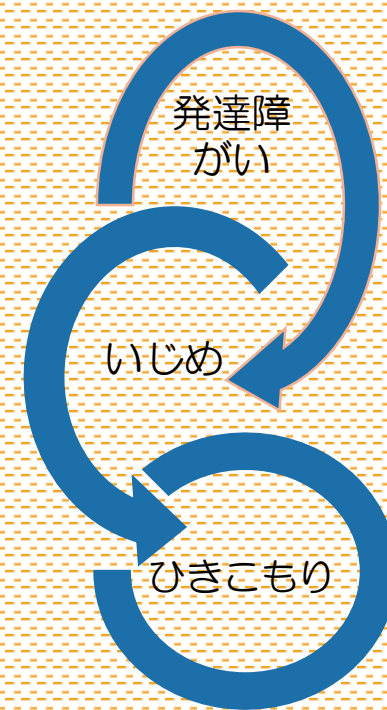
- ・子どもの貧困
- ・虐待
- ・発達障がい
- ・いじめ
- ・不登校、ひきこもり
- ・学力低下
- ・体力低下
- ・非行(暴力)
- ・養育力の低下
- ・地域力の低下
- ・インターネット、スマートフォン問題 etc..

- ・課題の複合化
- ・課題の深刻化



複雑・困難

だからこそ連携が大切



孤立・連鎖



プラットフォーム化に向けて

見えるところと見えにくいところ

学習支援団体



低学力

発達障害
学習環境

いじめ・
嫌がらせ

居場所の
なさ

子どもの
孤立

衣食住

貧困

親の
孤立

民生・児童委員



見守り

居場所
のなさ
つながり
のなさ

衣食住

子どもの
貧困

発達
障害

家庭
環境

親の
貧困

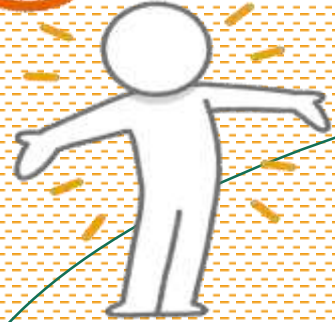
学習
環境

課題は同じでも立場・活動によって見え方やできることは異なる！

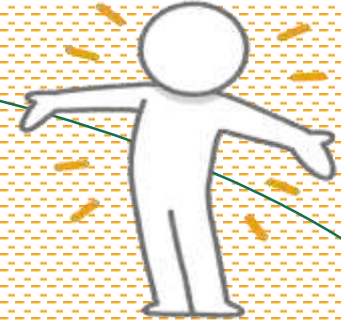


プラットフォーム化に向けて

自分達の活動を活かすために



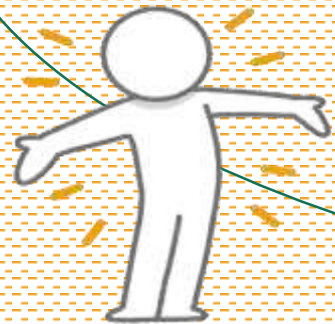
連携することで視野が広がる



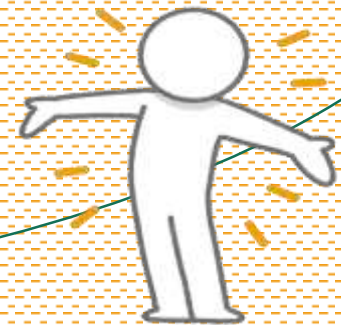
相乗効果

本来の活動目的の達成

相乗効果



連携することで活動が広がる



1 + 1 + 1 が 5 になる連携を！



プラットフォーム化に向けて

進め方

	テーマ	内容
1回目	目的の共有化と お互いを知ろう	社協からの趣旨説明 自己紹介と、それぞれの活動内容について話します。
2回目	各団体が抱える課題を 共有しよう	活動で困っていること、本当は取り組みたい活動などについて話し合います。さらにどうして困っているのか、取り組みたいのかのその背景（エピソード）にも意識して話します。
3回目	課題を掘り下げよう	前回の話し合いで出た課題を整理分類し、その課題ごとに本質を探るため、なぜそのようになっているのかの掘り下げを行います。
4回目	六郷プラットフォームで 出来ることを考えよう	課題の本質を探ったことによって明らかになった課題をもとに、みんなで協力して出来ること、つまり六郷プラットフォームで出来ることを考えます。

有意義な時間にするためのお願い

ルールの共有

1. 誰かを批判する発言や、その課題が誰のせいなのか追及しないようにしましょう。
2. 必ず発言をしましょう。
3. お互いの活動の違いを理解しましょう。
4. この集まりで共有した課題や情報は、地域のために活用しましょう。



場づくりの組み立て方

① 事前プログラム 趣旨説明とアイスブレイク

1回目 わが家のこれって当たり前

2回目 1000万円の寄付が入ったら何に使うか

3回目 今年の抱負

4回目 共通点(なかま)探し

② コアプログラム

1回目 自己紹介と活動続けてきたからこそ気づいた課題

2回目 SOSを言おう

3回目 課題の掘り下げ

4回目 六郷助け合いプラットフォームで出来ること

③ ふりかえり 参加者自身のふりかえり

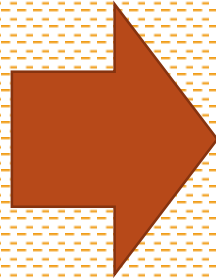
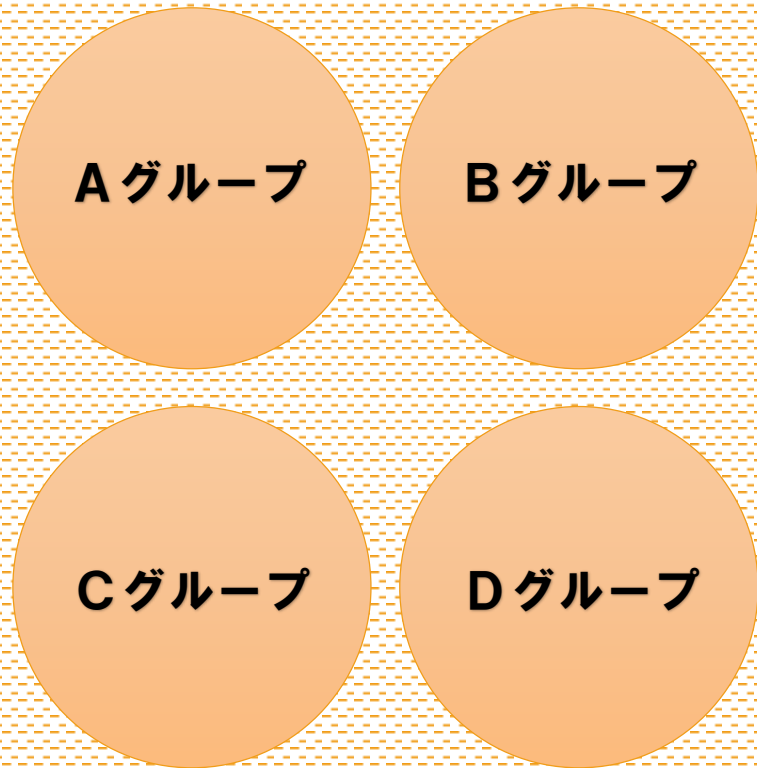


グループワークの様子 —課題の抽出—

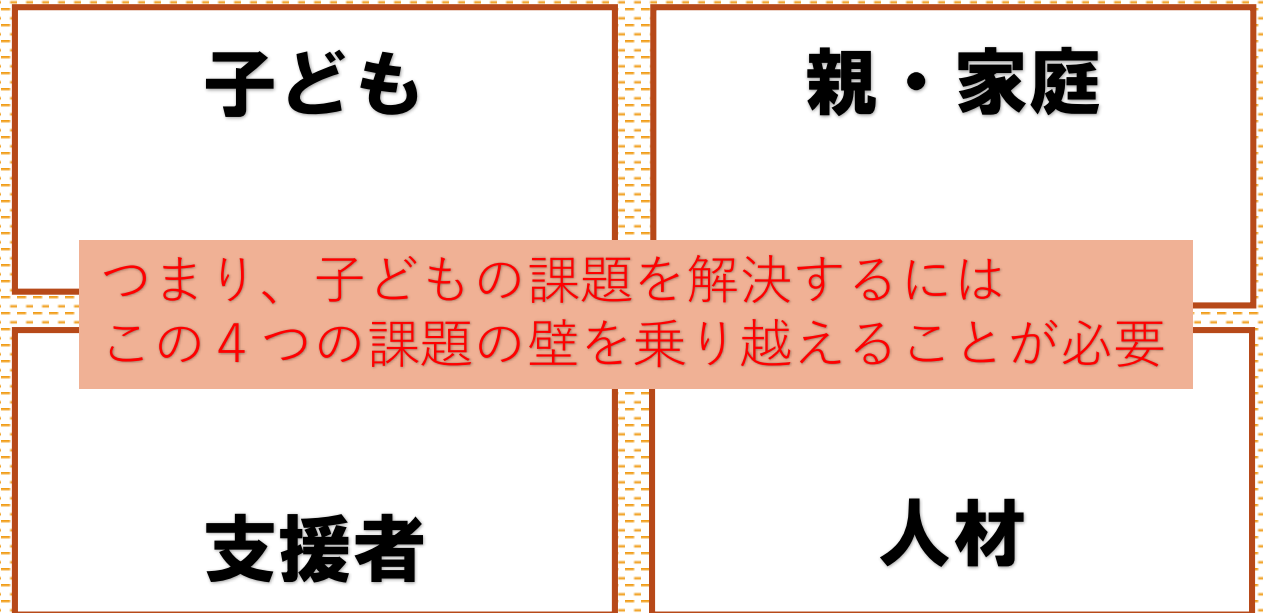




課題（SOS）を分類すると・・・



4つの課題カテゴリーに分けられた





「課題の壁」とは何か？

困っている人
問題を抱えている
人がいる

A



B



C



色々な事象が
生じている

1コ1コの課題に
取り組むのは
大変。

なぜその課題が
起きているのか
深く掘り下げていく

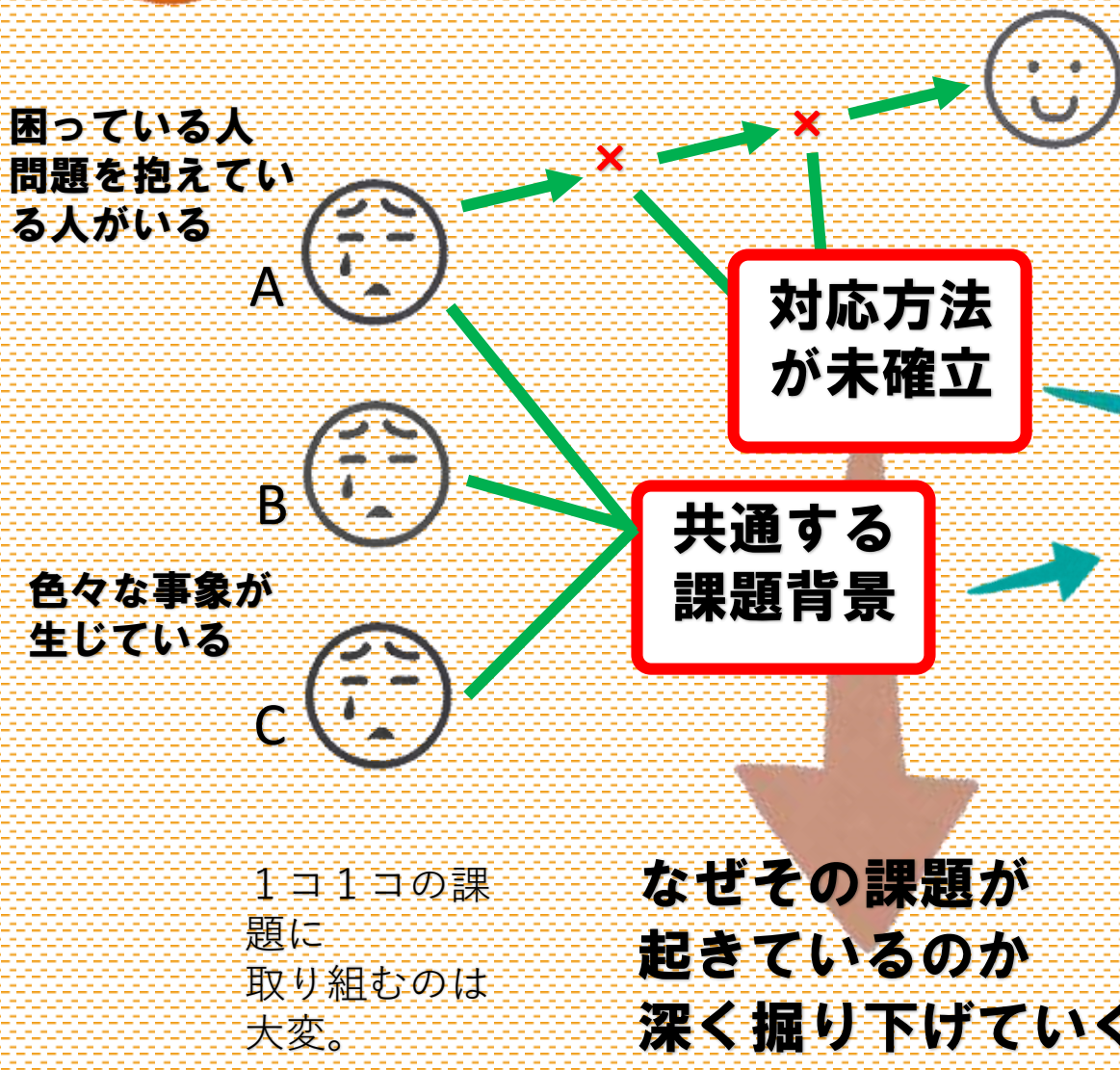
対応方法
が未確立

共通する
課題背景

個別の努力（自己責任論）だけでは、課題解決が困難。簡単には解決できない。

課題の本質が見えてくると
まず何から手を付けるべき
かが見えていく

六郷助けあい
プラットフォーム
で出来ることが
見えてくる…はず！

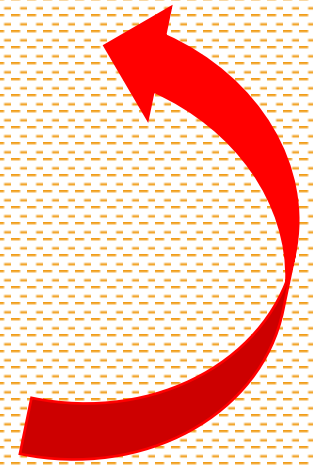




課題を掘り下げ方

問題解決のステップ

1. What (何が問題か)
2. Where (どこが問題なのか)
3. Why (なぜそうなっているのか)
👉ココが掘り下げポイント。
なぜ？なぜ？を繰り返す
4. How (どうするのか)
⇒本当に？ (反証してそれが正しいか確認)





全4回を通してわかったこと

- お互いの活動を意外と知らないこと。
- 普通の会議ではあまり話さない方も、課題を共有の場であれば、具体的にエピソードを話してくれること。
- 今と昔では、時代が変化しており（コミュニケーションの取り方、家族の考え方、遊び方など）、その理解が重要であること。
- わからないこと（SNSやネット、子どもの実態、親の悩みなど）もその地域の重要な課題であること。
- 壁だと思っていたことも、みんなで課題の本質を探っていくと、別ルートの解決方法が見つかったり、実は壁ではなかったり気づけること。
- 支援が必要だと思っていた方も、違う見方をすれば支援する側（担い手）になりえること。（支援臭が漂うのは良くない）
- 会議で前へと進むためには、ファシリテーターの存在がとても重要であること。



今後の展開

課題共有と連携の
必要性に気づく
きっかけとなる

組織化するのでは
なく、地域の課題や
情報を共有して、
助けあう場

社協は、
プラットフォームの場が
スムーズに進むように
ファシリテート技術で
次の展開に進むよう支援！



初回の4回連続講座

六郷助けあいプラットフォームとして本格始動



それぞれの活
動情報や課題
などを持ち
寄って集まる

実態把握のた
め、各自アン
ケートや聞き
取りを実施

把握した情報
をさらに共有

足りない資源や人
材を明確化
⇒人材バンク機能
とマッチング

特技や思いを持った
高齢者の参画へ

大田区の各地域で、**世代や多様性を超えた連携のプラットフォーム化を進め、ニーズとリソースがうまく結びつき、高齢者が活躍できる地域づくりを推進していきます。**